

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2013年 28週 (7月2週 7/8~7/14)
2013年 6月報

愛知県感染症情報センター (愛知県衛生研究所内)
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>
E-mail : eiseiken@pref.aichi.lg.jp
連絡先 : 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

風しん・先天性風しん症候群・麻しん、手足口病、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑、咽頭結膜熱
病原体検出情報
定点医療機関コメント
手足口病、ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎、マイコプラズマ肺炎等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(31)、細菌性赤痢(1)、腸管出血性大腸菌感染症(3)、レジオネラ症(2)、アメーバ赤痢(4)、ウイルス性肝炎(1)、後天性免疫不全症候群(7)、侵襲性肺炎球菌感染症(1)、梅毒(2)、風しん(11)、麻しん(1)

2013年 6月報

定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

○「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

トピックス

風しん(図1)・先天性風しん症候群・麻しん

愛知県の2013年の風しん報告数は、7月17日現在285件(男性230名、女性55名:10歳未満9名、10歳代22名、20歳代89名、30歳代95名、40歳代48名、50歳以上22名)で、予防接種歴別にみると、接種歴なし80件、あり21件、不明184件です。

先天性風しん症候群報告数は2件、麻しん報告数は7件です。

【参考ページ】麻しん・風しんの予防接種は2回受けましょう

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi_4.html

麻しん患者調査事業における麻しん患者発生報告状況

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl_2013.html

風しんについて(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index.html

風疹発生動向調査(国立感染症研究所)

<http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/diseases/rubella/rubella2013/rube13-27.pdf>

麻しんに関する特定感染症予防指針 一部改正(厚生労働省)平成25年4月1日適用

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/dl/241214a.pdf>

風しんの任意の予防接種の取扱いについて(協力依頼)(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/dl/130614.pdf>

手足口病(図2)

28週の定点当たり報告数が5.60(報告数1,019人)と警報レベル(定点当たり5.0以上)を超えたため、愛知県は警報を発令しました。2013年に搬入され検査が終了した6検体のうち、4検体からエンテロウイルス71型、1検体からコクサッキーウイルスA6型が検出されています(2ページ「病原体検出情報」参照)。

【参考ページ】

手足口病警報を発令します!!(7月18日発表)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/130718.pdf>

疾患別ウイルス検出情報

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

エンテロウイルス71型による手足口病に注意

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hfmd2013.html>

ヘルパンギーナ(図3)

28週の定点当たり報告数は2.07、27週176人→28週376人です。

◆伝染性紅斑

28週の定点当たり報告数は0.38、27週15人→28週69人です。

◆咽頭結膜熱

28週の定点当たり報告数は0.45、27週88人→28週82人です。

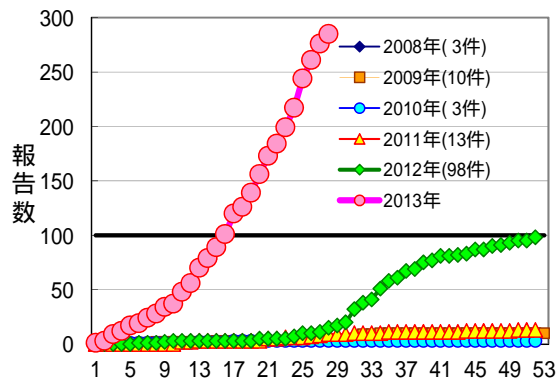


図1 風しん累積報告数 (愛知県、2008年~2013年28週、7月17日現在)

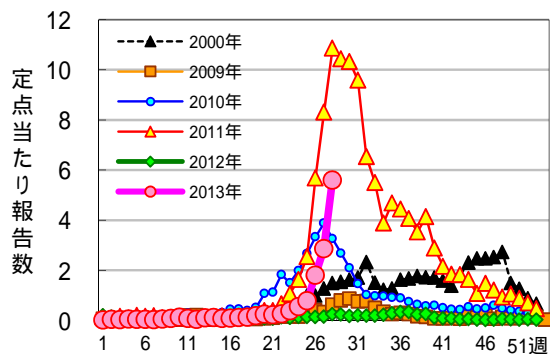


図2 手足口病

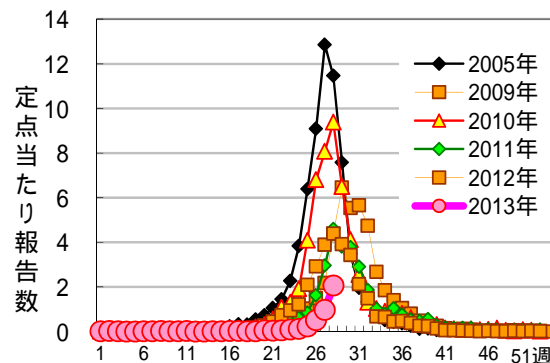


図3 ヘルパンギーナ

病原体検出情報

2013年疾患別ウイルス検出速報

(2013年7月15日現在)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	*インフルエンザ	**麻疹・風疹
患者数	152	24	9	6	10	15	8	188	21(24)
CV-A5	-	-	2	-	-	-	-	-	-
CV-A6	-	1	-	-	-	-	-	-	-
CV-A8	-	-	1	-	-	-	-	-	-
EV-71	-	4	-	-	-	-	-	-	-
E-30	1	-	-	-	-	-	-	-	-
FluAH1pdm09	-	-	-	-	-	-	-	6	-
FluAH3	-	-	-	-	-	-	-	106	-
FluB	-	-	-	-	-	-	-	55	(1)
MeV	-	-	-	-	-	-	-	-	4
RSV	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
RUBV	-	-	-	-	-	-	-	-	3(9)
Rota A	3	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G1	64	-	-	-	-	-	2	-	-
Rota A G3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
NV-GI	1	-	-	-	-	-	-	-	-
NV-GII	56	-	-	-	-	-	1	-	-
SV	4	-	-	-	-	-	-	-	-
AstV	3	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-2	10	-	-	1	-	-	-	-	(2)
Ad-3	1	-	-	1	-	-	-	-	(1)
Ad-4	-	-	-	1	1	-	-	-	-
Ad-5	-	-	-	1	1	-	-	-	-
Ad-41	11	-	-	-	-	-	-	-	-
B19V	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)
HSV-2	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
検査中	24	18	6	1	-	2	1	1	7(1)
陰性	19	1	-	1	8	13	5	20	6(8)

*インフルエンザは2012/2013シーズンの検査結果

**麻疹・風疹の()内は病原体定点医療機関外からの患者数の別掲

略: ウイルス名(他の略名)

Ad: アデノウイルス、AstV: アストロウイルス、B19V: ヒトパルボウイルスB19、CV: コクサッキーウイルス、E: エコーウイルス、EV-71: エンテロウイルス71型、FluAH1pdm09: インフルエンザウイルスA(H1)2009、FluAH3: A香港型インフルエンザウイルス、FluB: B型インフルエンザウイルス、HSV: 単純ヘルペスウイルス、MeV: 麻疹ウイルス、NV: ノロウイルス、Rota A: ロタウイルス A、RSV: RSウイルス、RUBV: 風疹ウイルス、SV: サボウイルス

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

- マイコプラズマ感染症 6名
【一宮市 ささい小児科】
- アデノウイルス感染、手足口病、ヘルパンギーナ、溶連菌感染あり
【一宮市 後藤小児科医院】
- 昨年流行した手足に発疹を伴うヘルパンギーナが見られました。
口蓋扁桃を中心とした強いアフタと手足の伸側の発疹が特徴的です。
【犬山市 武内医院】
- 手足口病非常に多いです。
溶連菌感染症 4名
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
- ヘルパンギーナ、手足口病 多発
水痘も散発
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
- 46歳男 病原大腸菌(O25)検出
1歳4か月女 突発性発疹
手足口病 3名(1歳女、3歳男、19歳女)
【清須市 丹羽医院】

尾張東部地区

- 手足口病、今週も多くみられました。ヘルパンギーナも出てきました。
カンピロバクター腸炎 (6歳女)
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
- 手足口病、ヘルパンギーナ、水痘が流行中です。
軽症のみです。
【豊明市 こども元気クリニック】
- 手足口病が増えています。髄膜炎合併例もありました。
【春日井市 春日井市民病院】
- 手足口病、ヘルパンギーナ 多数
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
- 手足口病が増えました。
【小牧市 志水こどもクリニック】
- 手足口病がふえて来てます。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
- ヘルパンギーナ、手足口病が増加しています。
【春日井市 ちがわこどもクリニック】
- RSVが2名いました。
【小牧市 小牧市民病院】
- 4歳男 マイコプラズマ
【大府市 まえはらこどもクリニック】
- 手足口病が多いです。
【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

- StrepA(+) 37歳女
イムノエースアデノ(+) 4歳女
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
- マイコプラズマ 4人
【豊田市 すくすくこどもクリニック】
- マイコプラズマ肺炎 2歳男 2歳女
カンピロバクター(+) 9歳男
咽頭アデノウイルス(+) 4歳男
手足口病で髄膜炎入院ありました。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
- 8歳男 サルモネラO9
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
- 4歳女 病原性大腸菌O125(VT陰性)
手足口病が目立ちます。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
- マイコ気管支炎 (8歳男、3歳女)2名
【刈谷市 田和小児科医院】
- 手足口病増加
【碧南市 永井小児科クリニック】
- 手足口病 25名、ヘルパンギーナ 24名
【知立市 宮谷クリニック】
- 幼児の手足口病が増加
【西尾市 やすい小児科】
- 手足口病増加
【西尾市 山岸クリニック】
- サルモネラ(O4群) 7歳男
病原性大腸菌(O18、VT陰性) 11歳女
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

- 発熱疾患が増えてきました。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
- 手足口病が増えてきました。
【豊橋市 あずまだこどもクリニック】
- 病原性大腸菌O25 女3歳
【豊川市 ささき小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2013年7月17日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun130506.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2013年28週報告数			2013年総計(1～28週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	12	2	4	428	123	89
豊田市	1			35	9	10
豊橋市	3	1	2	35	9	14
岡崎市				37	9	13
一宮	5	3	1	59	20	12
瀬戸	4	1		69	10	18
半田				32	12	12
春日井	1	1		47	13	3
豊川				33	8	4
津島	2		2	44	13	15
西尾				17	6	2
江南	1			33	6	12
新城				5	2	
知多				59	23	22
師勝				12	3	3
衣浦東部	2			47	16	7
合計	31	8	9	992	282	236

細菌性赤痢（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	推定感染地域
1	岡崎市	59歳	男	7/4	7/10	7/13	ミャンマー

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	2歳	女	7/7	7/8	7/10	O157、VT1(+) VT2(+)
2	豊田市	24歳	男	7/6	7/8	7/12	O型不明、VT型不明
3	岡崎市	7歳	男	7/2	7/5	7/9	O型不明、VT1(+) VT2(+)

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	瀬戸	78歳	男	肺炎型	国内
2	衣浦東部	64歳	男	肺炎型	国内

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	64歳	男	腸管アメーバ症	不明	タイ
2	名古屋市	50歳	男	腸管アメーバ症	不明	国内
3	名古屋市	36歳	男	腸管アメーバ症	不明	国内
4	名古屋市	1歳	女	腸管アメーバ症	経口	フィリピン

● ウイルス性肝炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	豊田市	1歳	男	その他(サイトメガロウイルス)	不明	国内

● 後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	22歳	男	無症候性	性的接触	大韓民国
2	名古屋市	29歳	男	無症候性	性的接触	国内
3	名古屋市	22歳	男	無症候性	性的接触	国内
4	名古屋市	62歳	男	AIDS	性的接触	国内
5	名古屋市	68歳	男	AIDS	性的接触	国内
6	名古屋市	22歳	男	無症候性	性的接触	国内
7	名古屋市	27歳	男	AIDS	性的接触	国内

● 侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	江南	89歳	男	不明	国内

● 梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	69歳	男	晩期顕症	性的接触	国内
2	豊橋市	38歳	男	無症候	性的接触	国内

風しん（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	23歳	男	不明	国内
2	名古屋市	21歳	女	不明	国内
3	名古屋市	0歳	女	無	国内
4	名古屋市	34歳	女	無	国内
5	豊田市	40歳	男	無	国内
6	豊田市	32歳	男	不明	国内
7	豊田市	26歳	男	不明	国内
8	豊橋市	1歳	男	有	国内
9	豊川	51歳	男	不明	国内
10	江南	18歳	男	不明	国内
11	江南	18歳	男	不明	国内

麻しん（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	津島	49歳	女	不明	国内

6月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況 [() は無症状病原体保有者再掲。]

2012～2013年に報告のあった 疾病名及び病型 ()内は全数把握対象疾病数		2013年6月			2013年 累計 <愛知県全体>	2012年 総計 <愛知県全体>
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体		
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0
二類 (5)	結核	89 (24)	66 (5)	155 (29)	917 (218)	1,934 (483)
三類 (5)	細菌性赤痢	1 (0)	0 (0)	1 (0)	6 (0)	13 (1)
	腸管出血性大腸菌感染症	22 (6)	6 (3)	28 (9)	47 (14)	163 (59)
	腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)
	パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)
四類 (43)	E型肝炎	1	0	1	1	1
	A型肝炎	0	0	0	2	7
	チクングニア熱	0	0	0	1	0
	つつが虫病	0	0	0	1	2
	デング熱	0	2	2	7	13
	マラリア	0	1	1	3	3
	ライム病	0	0	0	0	1
	レジオネラ症	2	1	3	22	50
五類 (18)	アメーバ赤痢	4	2	6	30	61
	ウイルス性肝炎	0	0	0	6	12
	内訳					
	B型	0	0	0	4	11
	その他	0	0	0	2	1
	急性脳炎	0	0	0	17	21
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	8	10
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	1	5	11
	後天性免疫不全症候群	1	9	10	46	117
	内訳					
	無症候性キャリア	1	6	7	29	74
	AIDS	0	3	3	17	39
	その他	0	0	0	0	4
	ジアルジア症	0	0	0	0	2
	髄膜炎菌性髄膜炎*	-	-	-	0	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症*	2	0	2	5	-
	侵襲性肺炎球菌感染症*	5	0	5	39	-
	先天性風しん症候群	0	0	0	2	0
	梅毒	4	3	7	25	39
	内訳					
	無症候	0	1	1	10	21
	早期顕症	3	2	5	13	13
	晚期顕症	1	0	1	2	5
	破傷風	0	0	0	0	4
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	0	1	6	5
	風しん	42	35	77	261	98
	麻しん	0	0	0	6	39
	総計	174	126	300	1,466	2,610

* 2013年4月1日から、5類感染症(全数把握対象疾患)に「侵襲性インフルエンザ菌感染症」及び「侵襲性肺炎球菌感染症」が追加されました。なお、この2疾患()を除く細菌性髄膜炎については引き続き基幹定点把握対象疾患です。同じく5類感染症の「髄膜炎菌性髄膜炎」が「侵襲性髄膜炎菌感染症」に変更されました。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2013年6月			2013年 累計	2012年 総計
		愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	82	66	148	847	1,620
	性器ヘルペスウイルス感染症	30	20	50	346	709
	尖圭コンジローマ	28	13	41	184	358
	淋菌感染症	29	35	64	319	637
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	72	17	89	595	1,361
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	1	41	120
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	8	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0

感染症の類型及び定義(感染症法)

2013年5月6日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。鳥インフルエンザ(H5N1)が平成20年5月12日の法改正により従前の四類感染症鳥インフルエンザから除かれ、二類感染症に追加された。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起しうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症 (44疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症* (1疾病)	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

* 2013年5月6日から、指定感染症に「鳥インフルエンザ(H7N9)」が追加されました。

